

救急医療コントロール運営事業の見直しについて

1 現状と課題

救急医療コントロール運営事業における救急転院対象患者は、「内科・脳神経外科の患者」及び「内科・脳神経外科以外の診療科の患者のうち、継続治療が内科的な治療又は経過観察のみである患者」であるが、その数は減少傾向にあり、平成28年度の対象患者数は516人であったところ、令和5年度には4割減の298人となっている。

減少した要因の一つとして、複数の疾患有しており、本事業の対象診療科である内科・脳神経外科に当たるまらない患者が増加していることが考えられる。

資料1-4 ①年度別転院患者数【再掲】

(単位：人)

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
救急転院対象患者数（a）	—	—	—	512	462	516	406
転院患者数（b）	67	352	456	464	388	378	353
転院率〔b/a〕	—	—	—	90.6%	84.0%	73.3%	86.9%
稼働日数（c）	46	248	304	365	365	366	365
稼働1日当たりの転院患者数〔b/c〕	1.46	1.42	1.50	1.27	1.06	1.03	0.97
転院交渉1回目で決定した転院患者数（d）	57	279	390	417	361	344	318
1回目での決定率〔d/b〕	85.1%	79.3%	85.5%	89.9%	93.0%	91.0%	90.1%
区分	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合計
救急転院対象患者数（a）	358	465	270	314	308	298	3,909
転院患者数（b）	350	430	235	285	244	277	4,279
転院率〔b/a〕	97.8%	92.5%	87.0%	90.8%	79.2%	93.0%	—
稼働日数（c）	365	365	366	365	365	365	4,250
稼働1日当たりの転院患者数〔b/c〕	0.96	1.18	0.64	0.78	0.67	0.76	1.01
転院交渉1回目で決定した転院患者数（d）	310	400	216	236	205	238	3,771
1回目での決定率〔d/b〕	88.6%	93.0%	91.9%	82.8%	84.0%	85.9%	—

また、令和6年度診療報酬改定において「救急患者連携搬送料」が新設され、三次救急医療機関等に救急搬送された患者について、連携する他の医療機関に看護師等が同乗の上で転院搬送する場合、緊急入院後3日目までの患者については、別紙のとおり診療科は問わずに算定となった。

2 課題解決に向けて

広島市民病院から支援病院への転院を円滑に実施し、受入困難事案の解消を図るため、予算配分の在り方や対象診療科の見直しなど、本事業の効果的・効率的な実施に向けた検討を行っていく。